

特集号「海上安全の今」について

(独)海上技術安全研究所

研究担当理事 松岡一祥

海上技術安全研究所は、その名の通り、海上安全のための研究を行っています。このたび「海上安全の今」についての特集を組むことになりました。

当研究所の安全についての研究は、様々な分野に及んでいます。研究課題の中には安全を明確にうたっていないものもあります。本特集では、AIS(船舶自動識別装置)を有効活用するための研究 2 件、船舶復原性に関する解説、当所に組織されている海難事故解析センターの活動とそこでの転覆事故解析の事例紹介、テロ対策のための爆発物検知技術、及び LNG 流出シミュレーションを取り上げています。

安全性の確保には応分のコストが必要です。安全性とその確保に必要なコストの間には概ね図 1 のような関係があります。現在の技術水準での安全性とコストの関係が曲線 M で示されています。リスクなどを評価した結果、現在の安全性とコストの関係は、点 P の付近だとします。安全研究は、曲線 M の点 P での接線より下側の A、B、C を対象とするものです。

安全工学としては B の領域、すなわち、安全性の向上とコストの低減とを共に満たすことが求められますが、新技術により曲線 L の様な安全性とコストの関係を構築しようとするれば、A、C の領域も対象に研究する必要があります。

上記のような関係を念頭に、本特集を御覧頂き、取り上げられた課題などの達成度をご確認頂きますとともに、海上安全の現状について御一考頂く一助となれば幸いです。

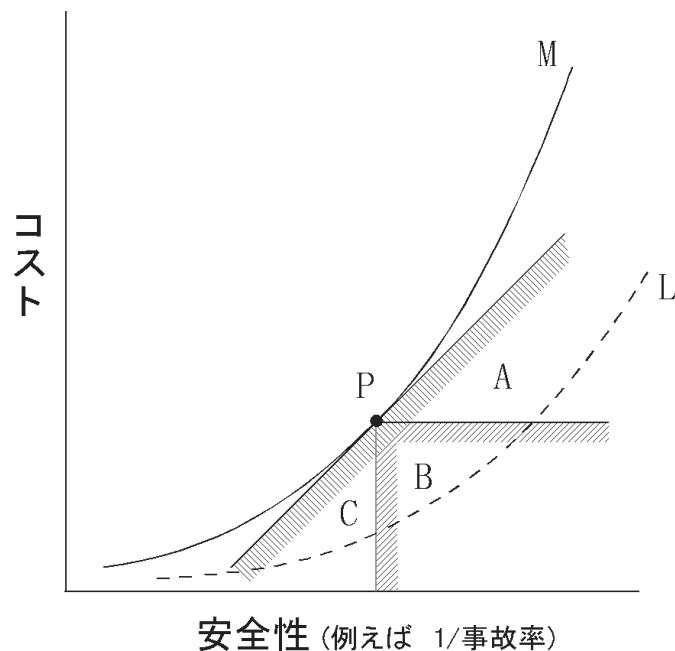


図 1 安全性とコストの相関

